

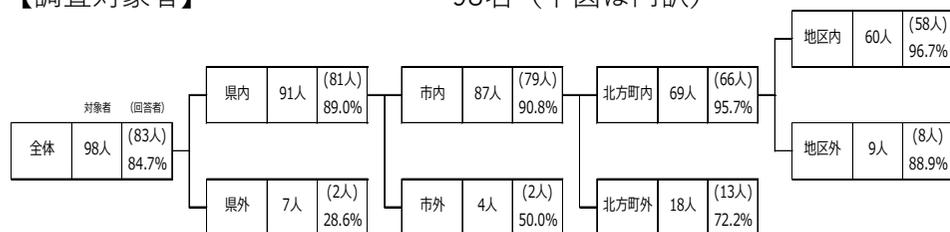
- ▶ 新たな森林管理システムを円滑に進めるためモデル集落を選定し意向調査を実施した。
- ▶ 先進自治体での研修や森林資源の適切な管理と森林・林業・木材産業の現状と目指すべき姿をテーマに、林野庁長官を講師に招きシンポジウムを開催した。

□ 事業内容

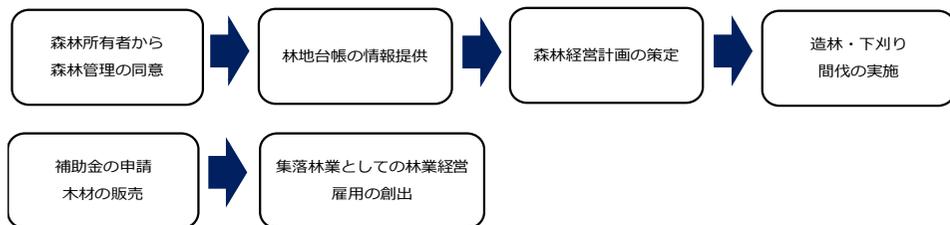
1 モデル集落を選定しての意向調査

北方町早上地区を意向調査のモデル集落に選定し、所有している森林の管理状況等について、アンケート調査を実施した。

- 【調査対象森林面積】 287ha
- 【調査対象筆数】 685筆
- 【事業費】 230千円
- 【調査対象者】 98名（下図は内訳）



【今後の進め方】



□ 工夫・留意した点

・新たな森林管理制度、森林環境税及び森林環境譲与税の施行元年であることから、林業関係者に広く最新の林業情勢を提供するためシンポジウムを開催した。

2 ひなたの林業シンポジウムinのべおかの開催

市内外の林業関係者306名が参加し、林野庁長官の基調講演、9名によるパネルディスカッションを行い、森林・林業・木材産業についての研修会を実施した。

【基調講演】

「今、日本の林業がやらなければならないこと」

講師：林野庁長官 本郷 浩二 氏

【パネルディスカッション】

「みやざきの林業を維持・発展するために」

パネリスト 8名

コーディネータ 1名

【事業費】 470千円



□ 基礎データ

①令和元年度譲与額	50,805千円
②私有林人工林面積（※1）	20,837.51ha
③林野率（※2）	84.2%
④人口（※3）	125,159人
⑤林業就業者数（※4）	307人

※1：「森林資源現況調査（林野庁、H29.3.31現在）」より、

※2：「2015農林業センサス」より、※3、4：「H27年国勢調査」より